

障害者就業・生活支援センターヒアリング概要(H24年度)

1.実施目的

障害者就業・生活支援センターでは、職業生活における自立を図るため、継続的に支援を必要とする障がい者に対し、地域の福祉関係機関と就労関係機関との連携をとりつつ、基礎訓練から就職・職場定着に至るまでの相談、援助を一貫して行っている。

近年、障がい者の就労数が増加しており、障害者就業・生活支援センターに期待される役割がますます高まってきていることから、障害者就業・生活支援センターの現状や課題等について聞き取りを行い、障害者就業・生活支援センターを取り巻く状況等について明らかにする。

2.調査方法

(1)対象 大阪府内の障害者就業・生活支援センター 18カ所

(2)手法 各障害者就業・生活支援センターへの訪問による聞き取り

(3)調査期間 平成24年8月9日～8月24日

3.ヒアリング内容

(1)企業開拓・定着支援等についての考え方等

(2)障害者就業・生活支援センターとして課題・その他

(3)福祉施設からの一般就労支援について

(4)ネットワーク構築等について

4.ヒアリングの概要

(1)企業開拓等について

・就ポツ独自の企業開拓は行われていないが、ハローワークとの連携（求人情報の提供、定期的なハローワークへの訪問等）により対応している、と多くの就ポツから回答があった。

・一部の就ポツにおいては、企業開拓員（就業支援ワーカー）が独自の企業開拓を行っている。求人チラシ（登録者からの提供）等について情報確認、同行等を行っており、さらに信頼関係のある企業からの声掛けや企業の紹介等がある場合もある、との回答があった。

(2)定着支援等について

職場定着支援については、送り出し機関である就労移行支援事業所等と連携した支援を継続的に行っていくことが望まれる。

しかしながら、一部において次のような現状がある、との回答があった。

- ・送り出し機関があまり訪問しておらず、就ポツが主となっている。
- ・訓練校について、実習から就職までは行われるが、その後、就ポツに任せるケースがある。

また、就職先企業からの連絡（問題が起こった場合等）は即座に対応することが基本であり、そういったことを通して、企業との信頼関係ができてくる、との回答があった。

(3)障害者就業・生活支援センターとしての課題・その他

就ポツとしての課題として次のような回答があった。

- ・登録人数が増加してきたことで定期的な会社訪問（アフターケア）が難しい状況。（今後、利用者が増加すると人員的に厳しい。）
- ・就業定着のためには、個人の生活をいかに安定させるかという部分が大きいので、就業生活支援（就業継続にあたって必要な生活支援）は率先して行う必要があると考えているが、対象者が膨らむ一方で、職員が足りない状況。（定着支援の仕組みが不十分であるため、就職者の定着機能において、就ポツの比重が大きくなりすぎている。）

(4)福祉施設からの一般就労支援について

○ 「第4次大阪府障がい者計画」において、「平成26年度において、福祉施設から一般就労に移行するすべての者が、障害者就業・生活支援センターの支援を受けられるようにすることを旨とする」としたことに対する回答として、

- ・考え方は理解できるが、就労支援、定着支援を行っていくことになるので、人員的に難しい。（現状の体制で対応できるか不安。） という回答が多かった。

○ 就労移行支援事業所について

就労移行支援事業との連携については、個別ケース支援（実習先の相談、実習の振り返り、定着支援等）について、連携して対応している、との回答が多かった。

一方で、まったく相談等のない事業所もあり、就労支援員の能力向上に無関心な事業所もある、との回答もあった。

(5)ネットワーク構築等について

○ ハローワークとの連携

就ポツにおいて、企業開拓、定着支援等でハローワークとの連携は密に行われている、との回答が大多数であった。

○ 支援学校との連携について

支援学校との連携については、できている学校とできていない学校があるとの回答があった。

- ・できている学校では、在学中からケース会議を行い、個別教育支援計画や家族、生活の状況等の情報を提供してもらっている。
- ・できていない学校では、秋のガイダンスで説明するだけで、就職が決まってから登録を行っている。

就ポツとしては、連携ができていない場合、本人との関係構築もままならないうちに定着支援を要する場面となり、支援の継続性が困難であると感じているところ。

今後、さらに連携を進めていくためには、在学中、実習時からの協働関係の構築、すなわち支援者・利用者としての関係構築の機会・時間・実績が重要と考えている、との回答があった。

○ 市町村との連携について

市町村との連携については、

- ・すべての就ポツが、圏域内の地域自立支援協議会に参画している。しかしながら、障がい者の就労に関しては、各市町村によって温度差がある、との回答であった。
- ・庁舎実習の受入れに関しても、取り組まれる市町村が増えてきており、その効果として、市町村職員の障がい者理解の啓発につながっている、との回答があった。
- ・また、市町村に対して望むこととして、福祉部局と商工労働部局との連携、との回答があった。

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
北河内西	門真市・ 守口市	<p>○企業開拓等</p> <p>・就ポツとして企業開拓はしていない。HWから求められて、適した人を紹介することはある。企業開拓はHWと支援学校がやるので、就ポツはそのあとを連携してくれればいいというようなところからスタートしている。</p> <p>○定着支援等</p> <p>・定着支援は送り出し機関も一緒にやっている。</p>		<p>○福祉施設から一般就労する全ての者が就ポツの支援を受けれるようにするというのは、考え方はわかるが現実には体制的に難しい。</p> <p>○就ポツと就労移行支援事業所との連携について</p> <p>・就ポツでは、各事業所の定員の空き状況は把握していない。就ポツで訓練、無給実習などを行っている。生活支援が必要な人は相談支援事業所につなぎ、一緒に支援している。</p> <p>・就労移行支援事業所は J S N とういず守口の 2 か所しかなく、就労移行支援サービス利用者は市外に出る人がほとんど。市外に出れない人は、市外まで通うのが難しいということなので、生活介護や就労継続 B 型の事業所を利用。</p>	<p>○HWとの連携</p> <p>・就ポツとしては、企業開拓をしたことがない。就ポツが職場実習に繋ぎ、就職できそうであればHWに伝えてマッチングをしてもらい、就ポツが就職後の定着支援を行う。面接同行や定着支援もHWと一緒に連携して行っている。</p> <p>○支援学校との連携</p> <p>・守口支援学校は熱心な取り組み。卒業して3～5年後でも、アフターフォローしてくれる。</p> <p>○市町村（自立支援協議会）との連携</p> <p>・就労支援部会が年6回。就ポツは幹事をしている。就ポツが両圏域にまたがっているので、守口、門真が合同で行っており、25機関が入っている。</p> <p>・3年連続、守口、門真両市で、庁舎実習を受けてくれている。守口市は4年目、門真市は3年目で、障がい種別は問わず、各10人の受け入れ。守口市には、コーディネーターを一人置いてくれている。市では、約50ある全課制覇を目指している。実習後、2年の臨時雇用に移行する場合もある。その間に次の就職先を決める。実習時期については、守口市、門真市で、連絡をとりあい、時期が重ならないように調整してくれている。実習にあたっては、送り出し機関の推薦書もいる。本人にあわせた形での受け入れをしており、最初に本人にフルタイムがいいのかななどの実習時間、日数などの希望をきく。その後、受け入れ課の面接を行い、これは今後の就職にあたっての面接の練習にもなっている。市庁舎での実習は、自転車で通える距離というのが良い。府庁実習は谷町四丁目まで交通費がかかる。</p> <p>この実習は、市役所の職員の啓発にもつながっている。</p> <p>・門真市では、昨年、センターに、現場のことがわかっている課長補佐級の人対象の研修を実施。就ポツと相談支援事業所と共同で、講義、グループワークなど併せて4時間の研修を行った。障がい者に対するイメージを持つことができ、実習の受け入れ依頼をすると手を挙げてくれる課が増えてきた。</p>

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ボツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ボツとしての課題・その他		
北河内東	大東市・ 交野市・ 四條畷市	<p>○企業開拓等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HWからの求人情報については、HWからの提供、就ボツから取りに行くパターンの両方あり、ケースバイケースである。 ・HWとは役割分担（HW：紹介、就ボツ：アフターフォロー）しながら連携し支援を実施。 ・就ボツ独自の企業開拓は特に行ってないが、企業側からの問い合わせがある。 <p>また、利用者からのチラシの持ち込み等により、利用者の状況等を説明するケースがある。</p> <p>○定着支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定着支援については、ケースバイケースで対応。HWで職場訪問した場合、状況の報告あり。 ・訓練校について、実習から就職まではやるが、その後、就ボツにまかせるケースがある。→就労前から情報提供等連携してほしい。 ・就職先企業から連絡があれば、即座に対応する。HWと連携したケースでは、HWから連絡があり、相談して対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登録人数が増加してきたことで定期的な会社訪問（アフターケア）が難しい状況である。本人の現況（仕事・生活面）を確認する取組みを検討中。。 	<ul style="list-style-type: none"> ○障がい福祉計画において、福祉施設から一般就労する全ての者が就ボツの支援を受けれるようにする、という目標を掲げていることについての認識 ・就労支援、定着支援をやっていくことになるので、人員的に厳しい。 ・アフターケアを中心に考えている。（就労については、就労支援事業所に協力を求めている。） ○就労移行支援事業所の状況については、把握している。 ・自立支援協議会（就労支援部会等）に参加し情報共有している。また、就ボツへの利用者の紹介や個別ケース支援等連携している。 ・施設から就労支援に対する取組み要請があれば支援は行う。 ・就労移行支援事業所については、一般就労を進めると定員割れとなってしまうことが問題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○HWとの連携 ・企業開拓、定着支援等で連携している。 ・精神に関するジョブガイダンスについて協力している。 ○支援学校との連携 ・福祉懇談会において就ボツについて説明→登録。 ・支援学校とは一緒に支援活動を行っている。 ・就労を目指す人については、個別に対応してもらえれば助かる。 ○市町村（自立支援協議会）との連携 ・市の福祉部門とは連携が密である。

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
南河内北	松原市・ 藤井寺市・ 羽曳野市	<p>○企業開拓等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HWからの求人情報（事務系 のものが多）については、HW から情報提供されている。（F A X、電話で個別に） ・就ポツでもHWに定期的に訪 問し、情報を取りに行っている。 ・HWと連携したケース支援につ いては常に行っている。（かなり 密度は濃い） ・センター独自の企業開拓につ いては、実習先の確保等のためや らないといけないと思うが、最近 はできていない。 <p>○定着支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訪問については、支 援者の個々の状況によりケース バイケースで対応している。 ・HWや福祉施設、支援学校等 との連携も行っている。 ・就職先企業との信頼構築につ いても個々の支援者ごとにケー スバイケースで対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、利用者が増えてくる と人員的に厳しくなることが 予想される。 ・高次脳機能障がいへの対 応が課題。 	<p>○障がい福祉計画において、福祉施設 から一般就労する全ての者が就 ポツの支援を受けれるようにす る、という目標を掲げている ことについての認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かなり登録を進めている。今 後、就職される人数が増えてく ると支援対応が難しくなるこ とが予想される。 <p>○就労移行支援事業所とその他の福祉 施設との支援についての考え 方の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談があれば、特に区別す ることなく対応している。（就 労移行支援事業所に行ってい た人が就労継続支援B型事業 所に移った方の支援等） <p>○就労移行支援事業所の状況につ いて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大体把握できている状況。 ・ジョブネット「トライアング ル」によるネットワーク会議、 訪問等により各就労支援事 業の状況について把握してい る。（当圏域については、知的 ベースの施設が多く、最近 は店員空きがある状況→精神 、発達が増えてきている影 響？） <p>○就ポツと就労移行支援事業所 との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所とは実習先の相談等 も行っている。 ・就ポツへの利用者の紹介につ いては、就職活動が始まる場 合に行われている。 ・個別ケース支援での連携につ いては、実習（振り返り）、 定着支援等について、お互 いに連絡を取り合って対応し ている。 <p>○就労実績の少ない事業所に対 する働きかけについては、上 記のネットワークにより支 援を行っている。</p>	<p>○HWとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業開拓、定着支援等で連 携している。 <p>○支援学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年時の年明けから就職ま での間に登録。 ・就職された場合は、学校と 同行して対応。 ・個別教育支援計画などの引 継ぎについては、ケースバイ ケース（引継ぎのないところ については、先に情報を提供 してほしい。） ・今後の課題としては、正 確な情報を提供してほしい。 また、本人に相談する目的 をよく理解させるようにして ほしい。 <p>○市町村（自立支援協議会） との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会では、ジョ ブネットの活動について報 告を行っている。 ・市町村に対して望むこと として、ジョブネットを発 展した形で就労支援部会を 作ってほしい。

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
大阪市	大阪市	<p>○新規企業開拓については、定着支援の延長でその信頼関係から次の求人の際に声をかけてくれることが多い。もともと一般求人だったものを障がい者求人に変えていく試みも多く行っているが、この場合は就職してもうまくいかないことがままある。やはり事業所が障がい者を受け入れるという意識とノウハウをどこまで強く持っているかが大事（企業担当者に対する情報提供等が必要）。HWの求人情報については、就ポツからも情報をいただきに行くとともに、定着支援等でも連携して対処できている状態。現状では新規求人の多くがHWより紹介をいただけている。</p> <p>○正式雇用に至るまでに、必要なアセスメントに要する時間を十分にかけられるべき。雇用後に問題が発生した場合、その対応にワーカーの手間がかかるし、雇用を急ぎすぎて、当事者・家族・事業所担当者共にマイナスイメージを持ってしまうことになる（段階的なステップアップに資する施策がもっと必要）。</p> <p>○基本的に定着支援は、当事者を送り出した機関と一緒に行動することが理想。むしろ事業所が主になるべきで、すべてのケースについて就ポツが定着支援という考え方は現実的ではない（就職前に当事者と必要な支援関係がないまま、就職後に新規で十分な支援が行われるわけがない）。また、就業定着のためには、個人の生活をいかに安定させるかという部分が大きいので、就業生活支援（就業継続にあたって必要な生活支援）は率先してやる必要があると考えているが、対象者が膨らむ一方で、そのために配置を要する職員が足りない状況。</p>	<p>○就ポツの中に大阪市のJ Cの席がある（当センター事業のノウハウを最大限に活かした取組みをするため）。大阪市では知的障がい者の採用（非常勤嘱託で契約更新して継続雇用を進めている現状で、例えば、公園の除草などの業務がある）や様々な関連庁舎での長期、短期実習のコーディネート（実習差配等）などをしている。</p>	<p>○どういった福祉施設を利用するかというアセスメントの時点で、まず就ポツに相談してほしい。最初の選択が間違っているのではないかというケースも多くみられる。問題が起こってからではなく、最初の時点から関わることで、支援に入りやすい。</p> <p>○現在検討している（当方の発案）利用アセスメントの仕組みの制度化を期待している。</p> <p>○圏域内就労移行支援事業所の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況は7つの地域C毎により違う。 ・南部センター管轄域（平野区周辺）は比較的資源が多く、移行支援の活動がすすんでおり、7つの移行支援事業所が集まって地域合同説明会（相談会も入れて）を行った。 ・大阪市北部エリア（淀川付近、宮古島周辺）は就労移行の活動がどうなっているのかわからない状況。特に（京橋や都島の辺りには）就労移行支援事業所がない。 ・事業所が集まって情報交換をする場が不足。7つの地域C毎に就ポツがそういった場をコーディネートしたい。 <p>○就ポツと就労移行支援事業所との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内7か所の地域C毎に運営会議を実施。ケースの相談だけではなく、就労系福祉サービス事業所が抱えている運営的な相談もできる機会（地域の行政も入り）となっている。 ・市域全体で就労移行支援事業所が集まって何かできないか考えている。 <p>○就労実績の少ない事業に対する働きかけについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働局で、就労実績のない事業所の職員（就労支援員）が特例子会社（労働局から声掛けをして、受け入れる状態にしている）で2W研修するという事業について、応援している状況。 ・やはり、各就労移行支援事業所における就労支援員のための研修が必要。就労支援員の能力向上に、無関心な事業所も多い。 	<p>○HWとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回、労働局主催の会議に参加。他に、就ポツ主催の会議にHWに参加してもらっているなど結びつきは強い。 ・ワーカーの携帯の一覧をHWが持っている。必要があれば、直接ワーカーに電話してもらっている。 ・求人情報について、HWから、その求人に適した人がいないか訊かれることが多い。中央でとりまとめ、地域Cとの調整を行っている。 ・その他、各地域Cが日常的にHWに情報を取りに行っている。 <p>○支援学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在学中の相談会はできるようになってきた。在学中は学校の支援を受けてもらい、卒業後に就ポツに登録する。移行支援事業所などへのつなぎの部分は、就ポツにも関わらせてほしい。問題が起こってから支援に入るのでは対応が難しいので、うまく行っている時に関係を作りたい。 ・大阪教育大学の付属校について。支援学校の仕組みから外れているのが課題。 <p>○市町村（自立支援協議会）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内24区の自立支援協議会すべてに参画。各区の運営状況に温度差が激しいことや、就労支援そのものについて取り扱う範囲や濃淡の開きも大きい。 ・市の自立支援協議会には就労部会はない。市の障がい福祉担当も問題意識はあるが、具体的な方向性は見えない。

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
泉州南	泉佐野市・ 岬町・ 阪南市・ 泉南市・ 熊取町・ 田尻町	<p>○企業開拓について</p> <p>・センターが圏域で認知されてきたので、会社から直接求人の連絡がある。泉州南の地域では、企業開拓する場合、小企業では最低賃金割れになることがあるので、慎重に行わないといけない。</p> <p>○定着支援について</p> <p>・在職者の増加に伴い、職員数の問題から定着支援での事業所訪問を定期的に行うのが、物理的に難しくなっている。能開校のように、定着支援専門員の配置をしてほしい。</p> <p>○就職先企業との信頼関係の構築について</p> <p>・問題が起こったときに必ず言ってお下さいと投げかけている。本人に対しても同様。問題が小さいうちに対応すれば解決しやすい。また、問題が起こった場合、即座に対応することが必須。</p>	<p>○行政は、就ポツがどういった仕事をするところかという理解をもっとしてほしい。</p> <p>○在職者増加のために職員数の問題から、訪問による定着頻度が下がる場合がある。定着支援の専門員を配置してほしい。</p>	<p>○自立で就労したい人、特に広汎性発達障がいの人など、中には就職のための支援を受けることを希望しない利用者もいる。就ポツとしては、支援を希望する利用者に対しては支援していく。</p> <p>○就労移行支援事業所とその他の福祉施設との支援についての考え方の相違はあるが、センターとしては主訴が就労として出てきた場合は支援対象とする。</p> <p>○就ポツと就労移行支援事業所との連携について</p> <p>・就労移行支援事業所との連絡会はないが、「就労支援ネットワーク会議（仮称）」を構築中。</p> <p>・就労移行支援事業所の空き状況は、連携を求める事業所とは常にコンタクトをとっているため、リアルタイムで情報が入ってくる。</p> <p>・ほとんどの事業所とは連携している。連携を求めて来ない事業所はあるが、独自の支援体制をとっている。N法人（聴覚障がい者対象）とは、昨年からの連携を開始した。当法人職員も、より密接な支援のために手話を使っての支援を行えるよう勉強を開始した。北部には聴覚障がい者の支援相談機関があるが、南地域には少ないこともあり、就ポツとしても支援を充実したい。視覚障がいについても、西脇市のHWと連携し広域支援を開始した。</p>	<p>○HWとの連携</p> <p>・もともとは定期的に求人情報を取りに行っていた。今は新規の求人があれば、HWから情報提供してくれる。</p> <p>・HWと個々の登録者についての連携したケース会議はしよつちゅうある。HWの統括や上席も、時間がある限り、面接同行、打ち合わせ、ケース会議、職業評価の開示、職務抽出などのため、現場に行っていく。</p> <p>○支援学校との連携</p> <p>・就ポツへの登録のタイミングが難しい。最終年度の夏を過ぎた頃に就ポツに相談してもらおう。それ以外は就労の前に在学中にアセスメントして登録。</p> <p>・佐野支援学校、佐野支援学校砂川分校、岸和田支援学校とは緊密に連携。岸和田支援学校は、2年時から相談に来る。卒業後10年経ってもそれぞれのケースをアフターフォローしている。</p> <p>・懇談会へ参加している。学校から情報を開示するのは難しいため、懇談会で情報収集している。</p> <p>・能開校との連携もできている。能開校のフォローアップは3年間で、3ヶ月ごとに定着支援を行っているため同行する機会が多い。事務的ではなく焦点を定めた訪問が重要と考える。</p> <p>・今後の展開としては、必要に応じて連携するのではなく、年間を通じたタイムテーブル、連携のパターンなどを形作っていく必要があるだろう。また、どの部分を学校が支援して、どの部分から就ポツが支援するかという役割分担も必要。</p> <p>○市町村（自立支援協議会）との連携</p> <p>・行政から相談依頼があるが、就ポツの機能をよくわかっている職員とわかっていない職員がおり、内容をうかがうと、就労できる状況にないケースの相談であることもある。</p> <p>・自立支援協議会は圏域に3議会あり担当者を定め、全大会、定例会、就労部会に委員として参加。相談支援事業所と行政が中心にすすめるので、就労に関わらない部分もある。</p> <p>・市町村では、庁舎実習の受け入れもしてくれている。阪南市では、入っているビルメンテナンスの会社に雇用してもらっている。就ポツとしては、無給の実習を長く続けるのではなく、少しの額でもいいので労働対価が支払われるほうが、就労への意識付けができるのではないかと考える。</p>

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
枚方市	枚方市	<p>○企業開拓等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HWからの求人情報については、HWから随時、求人情報を提供してもらっている。（FAX等）また、定期的に訪問している。 ・個別情報のやりとりもある。 ・連携したケース支援については、HW（入口支援、ジョブコーチ）と就ポツ（就労支援、定着支援等）と役割分担して行っている。 ・就ポツからも一般情報誌等で情報を得て、仕事の中身の相談等を行うケースがある。また、企業から問い合わせ等がある。 <p>○定着支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就ポツでの支援も行うが、就労支援事業所でも就職した人について独自に支援している。 ・訓練校について、実習から就職まではやるが、その後、就ポツにまかせるケースがある。→就労前から情報提供等連携してほしい。 ・就職先企業から連絡があれば、即座に対応する。HWと連携したケースでは、HWから連絡があり、相談して対応する。 	<p>○生活支援ワーカーへの支援が必要だと思う。</p>	<p>○障がい福祉計画において、福祉施設から一般就労する全ての者が就ポツの支援を受けれるようにする、という目標を掲げていることについての認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それは今もそうであると考えており、要請があれば支援を行っている。 ○就労移行支援事業所の状況については、把握している。 ・実務担当者会議(月1回：ジョブガイダンス、市庁舎実習の相談等)に参加し情報共有している。また、就ポツへの利用者の紹介や個別ケース支援等連携している。 	<p>○HWとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業開拓、定着支援等で連携している。 ・より良い支援をするために、HWと個人情報の共有をしていきたい。 <p>○支援学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労希望者は、3年時に説明会（相談→登録）。就職が決まりそうになると相談あり。 ・支援学校が実務担当者会議に参画している。 ・支援学校との連携は、今のところ十分できている。（先生が連携のアイデアを出してくれる。） <p>○市町村（自立支援協議会）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市とは、市職員の研修の講師（3障がいについて）や市職員の施設実習等市の障がい者就労に対する理解があり、十分連携できていると思う。 ・自立支援協議会については、成り立ちから実務担当者会議を就労支援部会にという位置づけで動いてきた。しかし、今年度から、就労部会を新たに立ち上げ、実務担当者会議とすみわけをし、施策提言などをしていこうと動いている。 ・市に対しては、現在、市庁舎実習等行われており、さらにチャレンジ雇用についても考えていってほしい。

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ボツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ボツとしての課題・その他		
東大阪市	東大阪市	<p>○当センターの就労支援の方針としては、所属機関の有無や種別によらず、できるだけ、当センターのワーカーが実施する支援頻度に差が出ないように心がけている。</p> <p>○現在、ワーカー一人当たりの実稼働ケース数はおよそ30ケースから40ケース。当センターとして、相談者一人当たり提供可能な支援量は限られているので、アセスメントを実施して、支援が量的に不足していると思われる場合は、関係機関に協力をお願いしている。</p> <p>○定着支援などを通して、企業と信頼関係ができてくると、雇い入れに関する相談を受けることもある。</p>		<p>○今年度から全体を対象とした年4回の定例会を開催。また、下位組織として、就労移行のグループと精神障がい者の就労支援グループを作った。全ての活動を合わせると、月1回以上の頻度で会を開いている。</p> <p>また、自立支援協議会の就労部会にも就ボツとして参加。部会は概ね2か月に1回の頻度。部会の下位組織として、3つのワーキングチームがあり、それぞれ2か月に1回くらいの頻度で集まっている。話題は、就労支援ネットワークでの話し合いと重複する部分もあるため、連携会議については、もっと効率的に運営していけるようにしていきたいと思っている。</p> <p>○真剣に一般就労を目指している相談者には、本人のニーズの実現に一番近い事業所を紹介しようと考えている。そのため、実績のない就労移行の事業所に基礎訓練を依頼することはほとんどない。</p> <p>当センターの併設施設は、現在、相談者のアセスメントのために利用している場合もある（利用契約はなし）。現在、就職活動中の利用者で、次の就職が決まるまでの間の日中活動の場が確保できずに困っている相談者への対応が課題になっている。就労移行支援事業の長期間の訓練ではなく、生活面も含めた評価をしながら、短期間で集中して求職活動の支援を行うグループを併設施設の中で作っていかないか検討している状態である。</p> <p>○就労実績の少ない事業に対する働きかけについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績ゼロの事業所は、就労支援部会には参画しているが、ネットワーク会議には来ない。福祉的就労、社会的就労など法人の考えがあり、働きかけは難しい。 ・就ボツとしては、何よりも各法人、事業所との関係性が重要。権限もなく指導というようなことはできない。 	<p>○個人情報の問題もあり、学校からは十分な引継ぎを受けていない状態で、支援を開始せざるを得ないケースがある。特に支援度が高いケースについては、卒業以前の連携がさらに必要と考える。</p> <p>○地域に精神障がい者の就労移行支援事業所がないなど、精神障がいの方の就労支援の体制が整っていないように感じている。特に、企業の体験実習や職場訪問など、施設外での支援の担い手が不足しており、当センターのみの対応では足りていないように感じる。現状について、自立支援協議会就労支援部会にて問題提起をしているが、具体的に解決方法を検討する段階には至っていない。</p>

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
寝屋川市	寝屋川市	<p>○企業開拓等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HWからの求人情報については、HWから個別情報の提供がある。 ・HWと連携したケース支援については常に行っている。（面接等就労支援全般にHWの協力あり。） ・センター独自の企業開拓については、特に行っていない。（企業側からアプローチがある。） <p>○定着支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訪問については、支援者の状況によりケースバイケースで対応。 ・就職先企業との信頼構築については、対応を早急に行うことが基本。やめる支援も行うことがある。 	<p>○現在是对应できているが、今後、利用者が増えてくると人道的に厳しくなることが予想され、人員の加配も必要であると思われる。</p>	<p>○障がい福祉計画において、福祉施設から一般就労する全ての者が就ポツの支援を受けれるようにする、という目標を掲げていることについての認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に問題はない。 <p>○就労移行支援事業所とその他の福祉施設との支援についての考え方の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談があれば、特に区別することなく対応している。 <p>○就労移行支援事業所の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・把握している。 ・実務担当者会議（月1回第3月曜開催：支援学校、医療機関参画）の場で情報共有している。また、エルガイダンス、エルフェスタ、研修等実施。 ・就労移行事業所連絡会も設置。 <p>○就労移行支援事業所との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の紹介、個別ケース支援（職場実習の窓口、企業とのつなぎ、振り返り）等実施。 <p>○就労移行支援事業所の機能強化支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労支援員の研修等実施しているとともに、各事業所が独自に勉強され、就労プログラム化されてきている。 	<p>○HWとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業開拓、定着支援等で連携している。（福祉施設の見学要請あり） ・障害者雇用率の未達成企業に、就ポツのことを周知してほしい。 <p>○支援学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携はしている。（担当の先生によって違う） ・就職された場合のアフターフォローについて、システム作りを始めている。 ・今後の課題としては、情報を密に提供する等、就ポツへのフォローもきめ細やかにしてほしい。 <p>○市町村（自立支援協議会）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会では、就労の話はあまりでない。 ・市には、市庁舎実習やエルガイダンス、ジョブガイダンス等へ協力してもらっている。 ・市に対して望むこととして、今年から市庁舎実習を開始され、今後、さらに障がい者就労に対し、積極的に取り組まれない。

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ボツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ボツとしての課題・その他		
豊能北	箕面市・ 池田市・ 豊能町・ 能勢町	<p>○企業開拓等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HWからの求人情報については、HWから情報がFAXで提供されている。（移行支援事業所にも提供されている）⇒気になる情報については問い合わせを行っている。 ・HWと連携した事業所支援をする等の役割分担のもと、連携して支援を行っている。 ・センター独自に企業開拓は特に行っていない。総合評価や指定管理の関係で、むしろ企業側から求人相談がある場合もある。また、HWから十分な求人があり、それと連携していくほうが有効であると思う。 ・JLSやCステップも企業開拓を行っており被るのではないか。企業開拓はどこか大きなところでまとめて行い、それを共有できればよい。 <p>○定着支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就ボツのスタッフを増やすことができない中では、いかに早くフェーディングできるかが重要。（通常は、3か月～半年→それ以降は月1回など） ・就職先企業との信頼関係については、企業に就ボツの役割について理解してもらわなければならない。（「なんでも就ボツに」では対応できない。） 	<p>○マンパワーに限られる中、就業・生活支援センターが地域の就労移行、就労継続B型に頼られる存在であり続けることに不安。</p>	<p>○障がい福祉計画において、福祉施設から一般就労する全ての者が就ボツの支援を受けられるようにする、という目標を掲げていることについての認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員となると支えきれぬのかと思うが、ケースバイケースで支援を行っている。 ・就労のことをあまりわからないまま、就ボツに登録されると就ボツへの誤解につながる恐れがあるので困る。最近では、就ボツへの無茶ぶりのことはなくなってきていると思う。 <p>○就労移行支援事業所とその他の福祉施設との支援についての考え方の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初から就労移行支援事業では難しいケースもある。また、就労継続B型事業所から一般就労への仕組みも選択肢として活用している。（就労移行支援事業所で就労につながらなかった場合、精神障がい者で病状に寄り添いながら、長い期間をかけて個々にあつち就労先を見つける場合等） <p>○就労移行支援事業所の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大体把握できている状況。 ・常に空いている状況。就労継続B型も利用者が不足しているような状況。→入ってくる人がいなければ一般就労にもつながらない。 ・今後は、当事者の親や各学校への就労系事業の積極的なPRが必要と考えている。 <p>○就労移行支援事業所との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域にある就労移行支援事業所の中に、当該圏域に住んでいる人が全くいない事業所もある。そういった事業所では、現時点では個別の支援での連携はしていない。 <p>○就労実績の少ない事業に対する働きかけについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労継続B型の支給のために就労移行の利用をしなければならぬといわれるような法制度の構造的な問題、これまでも言われているように、事業所での支援のマンパワーの問題など、根本的な問題がある。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般就労の意欲がない人も、まず就労移行支援事業所に行かないといけないというのはおかしいのではないか。 ・福祉施設からの一般就労といえながら、移行事業所（福祉施設）の中には、従来の福祉施設利用者でない人のニーズを掘り起こして実績を伸ばしているところも少なくない。大阪府全体での「福祉から就労」の評価をする際に、このような状況をどのように考えるのか。 	<p>○支援学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路担当の先生が異動になった時に、これまでの就ボツと学校との連携の持ち方等も含めて情報が引き継がれない場合があるので、校内で申し送ってもらえるように依頼している。また、就ボツの支援に必要な情報が過不足なく引き継がれるように、就ボツが作成した様式に情報を記入してもらえるようにする等、こちらが受け身でなく、主体的になる必要を感じている。 ・初回相談時に就ボツの役割を理解していない本人・家族は少なくない。支援が始まる前に、自分たちがまず大切であることを感じている。 ・進路指導については、行き先をはめ込むことではなく、本人の状況等も含めて考えていくことが大事だと思う。 <p>○市町村（自立支援協議会）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箕面市の自立支援協議会（運営会議）に今年度から参画。（地域での企業就労支援の状況について報告）→将来的に専門部会（就労支援部会）も。 ・各市の担当者に他市の就労移行支援事業所の状況を知ってもらって、連携につなげたい。

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
とよなか	豊中市	<p>○企業開拓等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HWからの求人情報については、HWから随時、求人情報 F A X（移行支援事業所へも）を送信してもらっている。 ・個別情報のやりとりもある。 ・新しい相談者については、HWが同行で訪問される。また、企業にも同行される。 ・就ポツからは企業開拓は行っていないが、企業から問い合わせ等がある。 ・豊中市等が設立した障がい者雇用に重点を置いた地域の中小企業「(株)きると」と連携。 <p>○定着支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定着支援については基本的には就労支援事業所から就職した人は事業所が担当。就ポツから就職した人については、初回は同行する。 ・ケースによっては、福祉施設から一般就労された方について、6か月以降も必要に応じて連携している。 ・就労者を対象とした勉強会、レクレーションをそれぞれ年4回程度開催し、就労者全員に案内を郵送している。 		<p>○障がい福祉計画において、福祉施設から一般就労する全ての者が就ポツの支援を受けれるようにする、という目標を掲げていることについての認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考え方については、そのとおりであると思うが、今後数が増えてくるので、現状の体制で対応できるかは不安である。 ・障がい重度化しており、支援が多く必要となってきている。 ・就労継続支援 B 型事業所については、就労に向け積極的でない。 <p>○圏域内就労移行支援事業所の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労移行支援事業所の状況については、把握している。 ・自立支援協議会就労促進部会に参加し情報共有している。また、事業所と個別に連携している。 ・就労移行支援事業所の就労支援員に対しては、就労支援についての勉強会等を開催し支援している。 	<p>○HWとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業開拓、定着支援等で連携している。 <p>○支援学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労希望者は、2年時に施設で実習してもらい、3年時に学校で面接を実施し、在学中に仮登録をする。 ・学校側からは就職先について連絡があり、先生と同行して職場訪問をしている。また、プロフィールシートの提供もある。 <p>○市町村（自立支援協議会）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会等に参加し、連携はできている。 ・就労支援部会については、地道な取り組みを進めるうえで有効であると思う。

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
泉州北	和泉市・ 高石市・ 泉大津市・ 忠岡町	<p>○企業開拓等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HWからの求人情報については、HWから随時、情報の提供をしてもらっている。 ・センター独自の企業開拓については、企業開拓員（就業支援ワーカー）が活動している。 <p>○定着支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HWから紹介の人についてケース会議を実施 ・福祉施設からの一般就労された方について、最初の職場訪問には同行している。送り出し側はあまり訪問しておらず、就ポツが主になっている。今後はさらに就労移行支援事業所との連携を強めていきたい。 ・特に定着支援については、J C（ジョブコーチ）と連携を密にして推進している。 	<p>○就ポツごとに支援方法が異なる（登録対象者の基準や企業対応など）。就ポツとしての基準やマニュアルがほしい。</p>	<p>○障がい福祉計画において、福祉施設から一般就労する全ての者が就ポツの支援を受けれるようにする、という目標を掲げていることについての認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考え方については、そのとおりであると思うが、現状の体制での対応は難しい。 <p>○就労移行支援事業所の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・把握している。 ・作業所連絡会の場で情報共有している。また、作業所へ定期訪問して空き状況等を確認している。 ・今後、作業所ごとの個性・特色を明確にして行く必要があるのではないかと考えている。 <p>○就労移行支援事業所への利用者の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の事業所を紹介して利用者に決めてもらっている。 	<p>○HWとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業開拓、定着支援等で連携している。 <p>○支援学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携できている学校と、できていない学校が極端。 ・できている学校は、3年の夏ごろからケース会議を行い、個別教育支援計画だけでなく、家族や生活の状況などの情報も提供してもらっている。 ・できていない学校は、秋のガイダンスで説明するだけで、就職が決まってから登録。個別教育支援計画はもらえていない。引き継ぐのであれば、情報をまとめておくべきではないか。 <p>○市町村（自立支援協議会）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会等に参加し、連携はできている。 ・市も含めた支援者ネットワークが構築できてきたので、今後は利用者となつないでいくことが課題と考えている。 ・和泉市には、特に知的障がい者や精神障がい者の、庁舎実習等の実施を働きかけているが、実現できていない。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからは個人ではなく、組織で取り組んでいく必要性を感じている。また、支援側のネットワークは進んできているが、今後は、利用者とのつながりを強めていくことが必要。

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
堺市	堺市	<p>○企業開拓等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HWからの求人情報については、HWから情報提供（毎月1回） ・就ポツでもHWに定期的に訪問し、情報を取りに行っている。 ・HWとの連携したケース支援については、登録者については、情報提供、同行などの支援を行っている。 ・センター独自の企業開拓については、求人チラシ（登録者から提供）についての情報確認、同行などを行っている。 <p>○定着支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訪問。 ・職場定着を促進するための活動支援の一環としてボランティア（余暇支援組織）と連携。 ・就業支援におけるアセスメントを重視している。 	<p>○現在、チーム支援方式を行っている。</p> <p>HW→企業情報（障がい者雇用未達成等）</p> <p>職業センター（職業評価）</p> <p>就ポツ→就労支援</p> <p>○ネットワークとは、弱いところを補いあい、助け合うことだと思っている。こうしたチーム支援を促進していく。</p>	<p>○障がい福祉計画において、福祉施設から一般就労する全ての者が就ポツの支援を受けれるようにする、という目標を掲げていることについての認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労を望む人が人がいるのであれば、就ポツとして信頼関係を構築し、支援を行っていく。 <p>○就労移行支援事業所の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・把握できている。。 ・移行支援事業所連絡会において、情報共有及び堺市における就労支援ネットワークに関する意見交換。 	<p>○HWとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム支援等により就労支援、定着支援等で連携している。 <p>○支援学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在学中に内々定時に登録してもらう。また、就労を希望する人にプレサポートとして、職業評価や簡単な作業12回（週4回）体験実習してもらい本人の能力や生活状況を把握し、学校側に情報提供している。（学校からも情報提供してもらう） ・今後も顔の見える支援を実施していく。 <p>○市町村（自立支援協議会）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用労働、福祉部門と連携。

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
高槻市	高槻市	<p>○企業開拓等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HWからの求人情報（事務系のものが多い）については、HWから情報提供されている。（移行支援事業所にはHWの指導があり渡していない） ・就ポツでもよいのがあれば取りに行っている。就労移行支援事業所でもHWに情報を取りに行っている。 ・HWと連携したケース支援についても行っている。（トラブル案件についての関わり方の協議や定着支援） ・センター独自に企業開拓も行っている（市事業、緊急雇用 平成22～23年度）。その他、JCが空き時間に開拓。求人チラシ、飛び込み、電話など。 <p>○定着支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労移行支援事業所との連携の仕方の発信やジョブコーチの活用促進などにより、できる場所は就労移行支援事業所でやってもらいたいと考えている。移行支援事業所が1号JCを今よりも活用してほしい。 		<p>○障がい福祉計画において、福祉施設から一般就労する全ての者が就ポツの支援を受けられるようにする、という目標を掲げていることについての認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要なことであると思っているが現実には体制的に難しい。就労移行支援事業所と就ポツは共に登録して支援。就労支援ネットワークによる就労支援ノウハウの提供を行っていく必要がある。 ・就ポツとしては、サービスの行き渡っていない人（在宅）への支援に力を入れる必要がある。 <p>○就労移行支援事業所とその他の福祉施設との支援についての考え方の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援B型事業所、生活介護については、厚めの支援を行っている。 <p>○就労移行支援事業所の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大体把握できている状況。 ・就労移行支援事業所は季節によって違いがある。精神については、訓練につながらないケースや精神対象の施設は定員等に苦しんでいる状況。 ・就労人数が0人のところは、年間で見たら就労実績はある。重度の方に丁寧に支援を行っている。 	<p>○HWとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業開拓、定着支援等で連携している。 ・HWからは毎日のように求人情報がFAXで来る。就労支援事業所には流していない。 ・数年前に、求人票には個人情報も含まれるので、他のところには流さないようにというやりとりがHWとの間であった。 <p>○支援学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校（高槻支援、茨木支援、吹田支援）各々の取組みに呼ばれて行く。 ・進路相談→3年時冬くらいに登録。 ・一般校（障がい児の就労支援をしたことのない先生）の支援。 ・学校側からの情報の提供は特に受けない。→登録時の相談により情報聞き取りを行う。 <p>○市町村（自立支援協議会）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の自立支援協議会ができて3年になるがあまり成果が出ておらず、今は停止状態。もっと機動的に動けるような形になるよう市で検討されている。 ・庁内実習に取組むという話も出ていて特に不満はない。 ・市に対して望むこととしては、障がい福祉と労働分野との連携。

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
南河内南	富田林市・ 河内長野市・ 大阪狭山市・ 河南町・ 太子町・ 千早赤阪村	<p>○最近の傾向を把握（登録者、就職者とも増、精神・発達障がい者の増など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体＜精神＜知的 ・精神障害～増加（発達障害も同様） <p>○企業開拓等 （HWの情報の入手について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に取りに行く。有力情報はFAX等を頂けることもある ・HWディ（毎月曜日Am→プログラム化） ・集団面接会～イベント的に10人前後の参加同行支援（HWと個々の登録者について連携したケース支援について） ・雇用指導対象事業所へのアプローチ（見学会～職場実習～採用～定着） ・特筆事項としては「トライアル雇用」から常用雇用への移行時 ・情報交換は随時実施 （センターの独自の企業開拓について） ・既に雇用されておられる事業所へのアプローチや新規採用等の依頼 ・以前と比較して、使える社会資源（インターンシップ/ジョブプラザ等）が増えたこともあり、かなりの減少傾向 <p>○定着支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訪問 相対的に就職して間もない頃については、定着支援のための訪問回数は多くなる。 ・特に、トライアル雇用時には頻りに訪問していた ・何も無い時にこそ、訪問して情報を得ておく必要があるのは分かっているが、急性期症状があるケースに追われて、手が回らないのが事実 ・一概に、就職した期間（年数）とは言えない→長くても課題の多い人もいるし、事業所側が「利用できる機関」と認識している場合も、頻度は高くなる <p>（HWや送り出し機関（福祉施設、支援学校等）との連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークとは、電話しない日が殆どないくらいの情報交換・相談等により連携は強化している。 ・体感的には、職業センターとの連携は、その半分くらいのイメージ ・最近「ジョブプラザ（大阪府）」との連携ケースが増えている印象 ・就労移行を中心に、地域の就労移行（特色のある事業所は、多少離れていても連携）との連携は不可欠 ・相談者→基礎訓練・日中活動の場の確保を目的に利用の促進支援 ・退所・就職者→就職に向けた職場実習や求職活動時の支援～共同体制 ・支援学校→進路指導会議への参画（情報共有＋顔の見える関係構築） ・トータルとして「南河内南就業・生活支援ネットワーク」での取組みをベースに広がり充実を図っているところ。 ・連携が取れない事業所は、こうした取組みにも積極的ではない。（就職先企業との信頼構築） ・定着支援訪問～何も無い時こそ情報収集＋信頼関係の構築のチャンス ・有事の際の対応～即応性、柔軟性が大切 ・コーディネーターとしての認識を持って頂く＝直接支援者 ・障害特性等の専門的知識の教授 ・家族との仲立ち～「買い手」から「売り手」への移行 ・本人ニーズと会社の要求の板挟み→ストレス労働の極み 会社：スキル・効率・人間関係 → 否 円満に退社してほしい。解雇は出せない（助成金関連） 本人：ご本人もご家族も就労継続を希望 	<p>○圧倒的な支援希望者（新規相談者数の増加）と、雇用促進法の強化により、更に増えることが十分に予測される「定着支援対象者」の支援に関しては、人的資源が充実（人員加配）しか、解消方法はない。当センターとしての機能強化（就職支援）は元より、教育分野・能力開発・福祉サービスなど、就労（就職者を生む）機能は高まっている。＝働く障害者が増える しかし、定着支援の仕組みが不十分＝そうした機関による就職者の定着機能は、全て「就業・生活支援センター」の役割となっている印象が・・・</p>	<p>○障がい福祉計画において、福祉施設から一般就労する全ての者が就ポツの支援を受けられるようにする、という目標を掲げていることについての認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認識している（定着支援のニーズが増えるのは必然であり、対応することができるが、大いに不安） ※ 今年度になり、就労移行支援事業所からの登録相談件数が急増している印象がある。→ 支援レベルに関して精査していく必要があると感じている。 ○就労移行支援事業所とその他の福祉施設との支援についての考え方の相違 「ネットワーク会議」については、基本的に就労移行・「継続支援 A型」「自立訓練」に重点を置いていることから、「B型 事業所」や「生活介護」との連携体制の強化はこれからの課題。 ◀個人的見解▶ より企業就業者を排出する Vs 作業工賃を向上させる ※ この方程式は同時成立しづらいと感じるところ・・・ ※ 福祉施設で「働く」を実現することについての意義 ○就労移行支援事業所の状況について ・今年度より「南河内南就業・生活支援ネットワーク」参画機関については、把握する（できる）ようにしている。また、施設への個別訪問することで把握している。 （就ポツへの利用者の紹介） ・タイミングとしては「職場実習」に行く段階あたりを目標に登録にこられるケースが多いように感じる。 ・逆に、基礎的訓練のために、移行事業所を活用する（個別ケースの支援での連携） ・これも、事業所により異なる。ある事業所とは、訓練部分は移行事業所。求職活動を含め、職場実習の提供や就業に向けた活動については、当センターが主軸となっており、全く相談に来られない事業所もある。相対的にネットワーク会議に参画されない事業所との連携は薄い印象 ○就労実績の少ない事業に対する働きかけについて ・職場実習や面接会 独自の求人情報等の提供はしているが、先方の実績までの情報は無い 	<p>○HWとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人情報の入手、HWのチーム支援、共に圏域内のネットワークの中核 ・当地域については「HW」の所管地域（守備範囲）と当センターの担当圏域が全く同じということもあり、常に連携しているところ。 ・「南河内南就業・生活支援ネットワーク」の立上げ共催～会議場所の提供 ・体制については構築できた→今後、担当者が代わっても、維持・向上が図れるように、次世代への橋渡しの取組みが重要 ・「共同作業」～フォーラムの実施などの実績つくり <p>○支援学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在学中から登録を促し学校と連携して支援 ・「たまがわ支援学校」～今年度より実施（8月個別面談）→随時、登録 ※ 9月実習については、共同支援体制を模索予定 ・他の支援学校（富田林・藤井寺） → 進路指導ブロック会議にて個別にお会いした程度 例年は、卒業時に就職者を一気に登録するようにしているが、ラポール形成（関係構築）もままならないうちに、定着支援を要する場面となり、支援の継続性が困難と感じているところ。 （学校側の卒業後のアフターフォロー） ・顔の見える関係ができてきていることで、支援の主軸は移ることを前提として、事業所等への同行を依頼できる関係にある。 ・仕組みとしては整ってきているかもしれないが、いかにせん利用者との距離感については大きな課題である。→ 実際に働いているところに行っても、ラポール形成は困難 （今後、さらに連携を進めていくための課題） ・在校中、実習時からの協働関係の構築→支援者・利用者としての関係構築の機会・時間・実績が重要 <p>○市町村（自立支援協議会）との連携 （地域自立支援協議会（就労支援部会）との関わり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当地域には4つの「地域自立支援協議会」が存在する ・全協議会の「代表者会議」にはセンター長が出席 ・定例会議（実務者レベル）には、ワーカーが担当して参画 ・「南河内南就業・生活支援ネットワーク」の各自立支援協議会との連携 ・一部の協議会では南河内南就業・生活支援ネットワークの取組そのものを「就労支援部会」として位置づけている 今後、さらに連携を進めていくための課題 ○各協議会において「部会」としての位置づけされること ○実務レベルで、ネットワークで表出してきた課題について、協議会に取り上げられ、改善に向けて協議されること。それが施策や独自事業等につながれば、更にモチベーションが高くなる <p>市町村に対して望むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○当センターの活動圏域は6自治体が存在する。→市町村による格差が激しい領域が存在する。（交通費の助成施策）

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
泉州中	貝塚市・ 岸和田市	<p>○企業開拓・マッチング・定着支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Cでの企業開拓はなし。HWにお願いしたいところ。 ・定着支援は就ポツという傾向がある。支援者がいないケースもある。学校、事業所を出たら就ポツがフォローする状態。 		<p>○圏域内就労移行支援事業所の状況</p> <p>（圏域内就労移行支援事業所の状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・把握している。K事業所（岸和田）、接客業、精神や発達には強くない、一定就職者を出し切っている。 I事業所（貝塚）B型も行っており、事業所で定着支援を行っておりCのかかわり薄い。重度の利用者多い、就労への意欲薄い。 <p>（就ポツと就労移行支援事業所との連携について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営会議に参加促す。ほかにB型やA型など。P事業所は就労者を出し切ってB型になる、就労支援は全て就ポツが行った。そういう状態では支援学校も送らないし、就ポツも紹介しない。 <p>（就労実績の少ない事業に対する働きかけについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議への参加、企業訪問への誘いなど啓発している。（地域的に重度の方が多い。施設の体制などもあり、専門性や質の向上が難しい現状あり） 	<p>○HWとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岸和田HW。連携している。障がい者求人が上がってくると、連絡取りあいマッチングの相談等。常に連絡取りあう形。 ・企業開拓をお願いしたい。合同面接会ない。 <p>○支援学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岸和田支援。2年時懇談会参加。（就労数少ない） ・佐野支援。学校独自でルートを開拓されている。懇談会からの関わり。 ・貝塚高校（自立支援推進校）。懇談会参加。内定時期に登録。 ・久米田高校（共生推進校）。来所など新たに連携構築予定あり。 ・個別教育支援計画はもらっていないが、保護者の了解を得て出せるように考えるという状況。 ・やはり受け入れた企業のことを考えてほしい。 <p>○市町村（自立支援協議会）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携有。 ・岸和田市。就労部会なく、検討している。 ・貝塚市。部会での支援計画の策定の検討、全体会での支援計画の策定や社会資源の整理について議論している。 ・庁内実習について。岸和田市は昨年が年3クールで受け入れあり。貝塚市は交渉中。

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
茨木・摂津	茨木市・ 摂津市	<p>○企業開拓・マッチング・定着支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業開拓は特には行ってない。様々な人が来るので職種を絞りづらい。利用者と一緒にHWへ行き求人票を見る。 ・定着支援について。就職後しばらくは、毎日～1Wに1回位の頻度で職場訪問。勤めて何年か経って不安定になった場合も、毎日～1Wに1回位の頻度で職場訪問。安定した人は、月に1回～2か月に1回の頻度で。 ・求人の一覧表も、就ポツと「せつづくすのき」（職業訓練C）に届く。 ・就職先企業とは、定期的なアフターフォローにより信頼構築を図っている。 	<p>○産休職員の代替がなかなか決まらない。スタッフの人数よりは労働条件の問題であり、一人当たりの人件費を上げたほうが定着率もよくなるだろう。福祉系の教育過程に就ポツが抜けており、重度の障がい者の施設には実習に行くが、就ポツには実習に行かないなどにより、福祉系の学校でも就ポツの認知が低い。こういうことも、募集をしても応募がないことに繋がっているのではないか。</p>	<p>○福祉施設からの一般就労支援についての基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設から一般就労する全ての者が就ポツの支援を受けれるようにするという考え方はわかるが、人間的な問題があり難しい。 ・就労移行するために新しく立ち上げた就労移行支援事業所には、就職するつもりの人が入ってくるので就職できる。旧授産施設から移行した事業所については、もともと利用者は就職するつもりがない人であるなど、抱えている利用者像は変わらない。事業所としても、仕事のできる人に辞められたら困るなどという考えもある。家族としても、就職してやっていけるのか、ダメだった場合に戻る場があるのかと、不安を感じている。再チャレンジできる雰囲気、ダメだった場合の受け皿のシステムをきちんと作る必要がある。 <p>○圏域内就労移行支援事業所の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移行支援事業所の状況を常時把握しているということはない。個々に相談があった際に事業所に照会して対応する。 <p>○就ポツと就労移行支援事業所との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労移行支援事業所のスタッフが会社訪問する方が、これまで利用者との関係が作れていることもあり、支援がうまくいくこともあるので、連携して行っている。 ・就ポツだけが支援している場合は、JCや相談支援をつけ、就ポツだけに集中しないようにしている。 	<p>○HWとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就ポツからの関わりはある。HWからのケースの連携については、就職が決まってからはじめて就ポツへ登録するケースは結構あるが、関係が取れていない状況でのアフターケアは難しい。 ・H20年頃からケースの共有などが薄れてきている。昔は、面接の付き添いなどもHWの職員がしてくれたが、今はかなり減っている。 ・求人情報については、せつづくすのきに府内のリストがFAXで定期的に流されてくる。また、まれにHWから直接、求人情報が来る。 ・ケース会議にHWにも入ってもらうこともある。 <p>○支援学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援学校は、7月に進路懇談会を開いており、そのときに就ポツのリーフレットや登録用紙を渡しているが、それきりで関わりがなくなる。卒業直前に就ポツに登録、卒業後のフォローを就ポツがすることになる。期間がかなり開くため、職場実習などには関わらせてほしいと就ポツから支援学校に伝えている。支援学校から就職する学生は、採用が決まったあと、就職するまでその会社に行かないので、本人も学校も会社も、就職したらどうなるか、4月に入ってみないとわからない。 ・個人情報等を壁にして、支援学校から本人についての情報が得られないことが課題。 <p>○市町村（自立支援協議会）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会へ出席している。 ・茨木市には障害者就労支援ネットワーク会議があり、情報交換などを毎月行っている。ここには移行支援事業所も参加している。 ・就労支援プロジェクトチーム会議を毎月第2火曜日に実施。今後、就労支援部会に移行する予定。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ部屋にあるので、相談支援事業所との関係は良好。身体障がいや精神障がい対象の相談支援事業所についても、半径500m以内にあるので連携しやすい。

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
八尾・柏原	八尾市・ 柏原市	<p>○企業開拓について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係のある企業から声掛けをもらったり、企業を紹介してもらうことはある。HWからの情報によるところが大きい。 <p>○職場定着について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定着のために職場訪問をする期間は1年位。毎月「働く仲間の集い」を実施。職場訪問をしても、しんどいことは職場では言いにくい。週末のレクレーションの機会を使って本人の状況の把握をしている。 <p>○送り出し機関は長期的な定着支援がしにくい。就ポツとしては、在宅の人に対しても施設からの人に対しても区別なく、同様の定着支援を行っている。</p>		<p>○八尾・柏原は圏域内の就労移行支援事業所の就労実績が少なく、八尾市では、障害者就労支援推進事業(2年)を実施することとなった。市からの委託で、就ポツが実施。Aコースは作業所の管理者向け、Bコースは支援者・就職を希望する利用者向けで、同時に受けていただくことが前提。Aコースは障がい者雇用に理解のある企業家の講演を聞き意見交換を行う。Bコースは、就職している当事者の話を聞いたり、企業実習に行ってもらうなどのこちらも5回のプログラムを設定している。1年で2クール行い、1クール目は先日終了。6作業所が参加した。こういった事業により意識改革を図り、作業所での就労も含めた就労支援全体のレベルアップを目的にしている。就職者数を増やすことだけではなく、「働くこと」について一緒に考えるという内容で、作業所の実態に合った研修にしないと意味がない。就ポツとしても、就職者数を増やすよりも、どうやったら長続きできるかの方が大事だと考えているので、こうした事業を通じた連携の中で地域の支援の質の向上を間座したい。</p> <p>○柏原市は移行支援事業所がなくなったので、継続Bと連携している。八尾市においても移行支援事業所に限っていない。</p>	<p>○HWとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HWから適宜求人情報がくる。利用者に適したポイントの紹介もくる。 ・HWと個々の登録者について連携したケース会議を行っている。HWを含め、様々な関係機関とのケース会議は昨年131回実施。 <p>○支援学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就ポツへは在学中に登録してもらう。就職が決まりそうな実習の時点で声をかけてくれたら関わっている。在学中に企業とのつながりを作りたい。 ・Cステップとの関係は整理が必要。在学中の企業とのやり取りは、学校とCステップが行う、と学校からの説明があった。就ポツが卒業後の定着支援を行うのであれば、就職前から関わることが望ましい。 ・支援学校の個別教育支援計画が卒業後でないと開示されない。就ポツとの連携との記載があるのに共有せず、卒業後、定着支援だけ依頼されても情報が不足している。今年から卒業後まとめてケース会議を行うようにしている。 ・学校から企業に対して必要な情報提供がなく、企業からの信頼を損うこともある。少なくとも雇用前の実習時には、配慮事項など必要な情報を提供しておくべきではないか。 <p>○市町村（自立支援協議会）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「障害者雇用を考える集い」を実施。今回で11回目。柏原市、八尾市で順番に行っている。内容は就ポツが企画している。 ・八尾には日中就労支援部会があるが参加していない柏原には就労部会しかなかったため、参加したが就労以外のことも話題となることが多く整理が必要だと進言している。

障害者就業・生活支援センター ヒアリング（H24.8.9～8.24実施）結果

名称	圏域 市町村	就業・生活支援関係（就ポツとしての取組み）		就業・生活支援関係（福祉施設 からの一般就労支援）	就業・生活支援関係（ネットワーク構築等 について）
		企業開拓・マッチング・定着支援 についての考え方等	就ポツとしての課題・その他		
すいた	吹田市	<p>○企業開拓等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HWからの求人情報については、障がい者の登録の時などのついでに入手することが多い。 <p>○定着支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェーディングについては、支援対象者の状況によりケースバイケースで対応している。 ・本人からの発信力が弱い、企業との関係が構築しにくいところについては、見守りを厚くしている。 ・就職先企業との信頼関係については、企業から発信してくれるところが多い。 		<p>○障がい福祉計画において、福祉施設から一般就労する全ての者が就ポツの支援を受けられるようにする、という目標を掲げていることについての認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいことであり、そうあるべきではと思う。就ポツのキャパとしてできるできないは別として。また、就ポツに登録したくない、利用したくないという人もいる。 <p>○就労移行支援事業所とその他の福祉施設との支援についての考え方の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に変えてはいない。ただ、移行支援事業所はスキルを持っているので、それを信用して関与する。 <p>○圏域内就労移行支援事業所の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者のいる事業所については、把握している。（ケース会議に参加、定着支援からの登録はない、定員の空き状況も把握している、各事業所の支援内容、支援方針などについてもある程度把握している。） <p>○就ポツと就労移行支援事業所との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就ポツから就労移行支援事業所への紹介が多い。 ・個別ケースの支援での連携も行っている。 	<p>○HWとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HWとのやり取りは頻繁にある。（面接への動向、ケース会議はあまりない。） <p>○支援学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携はしている。登録は早いほどいい。（烏飼校は1年時から登録している。） ・今後の課題として、学校との信頼関係の構築（十分な情報の提供等）が挙げられる。就職に不利になりそうな家族の情報、病気（てんかん）等の情報が提供されず就職後に企業からクレームが来たことがある。 <p>○市町村（自立支援協議会）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会に工賃検討部会があり、そこに就ポツも入っている。市に特に望むことはない。就ポツと事業所で考えてやっていく。 <p>○吹田市では、障害者雇用促進事業団（仮称）の構想があるようである。</p>